

# 2018年度 認知神経リハビリテーション・ベーシックコース（福岡・プログラム）

1日目(6月30日)

## [リハビリテーション脳科学・片麻痺の臨床神経学]

09:20- 認知の樹（映像）

09:30-10:30 講義 1) リハビリテーション脳科学（池田）

- ① 認知と行為のニューロサイエンス
- ② アノーキンの機能系
- ③ 行為の脳内シミュレーション(運動イメージ)

10:35-11:35 講義 2) 片麻痺の臨床神経学（安藤）

- ① バビンスキー反射の解釈をめぐって
- ② ペナンブラ、機能解離、半球間抑制、弛緩性麻痺、痙性麻痺、代償運動、ADL・・・
- ③ 錐体路は何を制御しているのか？
- ④ 片麻痺の謎を探求する
- ⑤ 行為の質(QOA)と運動スキルの学習

## [認知神経リハビリテーション入門]

11:45-12:35 講義 3) 認知神経理論（信迫）

- ① リハビリテーション理論
- ② 世界に意味を与える身体
- ③ 身体と環境の相互作用
- ④ 病的状態からの学習プロセス
- ⑤ 認知問題－知覚仮説－解答

13:30-15:00 演習 1) 病態分析と病態解釈（高橋）

- ① 脳画像検査や手術所見などから得られる情報から数量化、視覚化可能な検査チャートによる評価まで
- ② 外部観察・・・姿勢と動作の特徴（自発的・規定動作）、神経学的病理、特異的な運動の異常要素、行為システム
- ③ 内部観察・・・認知過程の変質、意識経験の変質、観察のためのプロフィール、一人称言語記述、意識の志向性

15:15-16:00 講義 4) 行為の機能システムと情報メカニズム（宮本）

- ① 行為の創発
- ② 行為・機能・情報のヒエラルキー
- ③ 行為の機能システムの回復のための情報の構築

16:00-16:45 講義 5) 道具と訓練（西谷）

- ① 道具の名称
- ② 物理的道具と心理的道具
- ③ ツールとしての訓練器具・運動イメージ・言語・他者観察

16:50-18:20 演習 2) 認知運動療法における訓練の組織化（宮本）

- ① 認知運動療法の臨床(映像)
- ② 身体部位、訓練段階、感覚モダリティ 認知問題
- ③ 空間問題と接触問題の実技演習
- ④ テーマ、内容・方法・検証

2日目(7月1日)

[脳の中の訓練室]

09:20-12:50 演習3) 行為の機能システムと認知神経リハビリテーションの実際

- ① 行為システム、訓練器具、難易度の調整
- ② 基本的手続きと実技
- ③

[I] 上肢の機能システムと訓練の実際 (西谷・全講師)

[II] 体幹の機能システムと訓練の実際 (宮本・全講師)

[III] 下肢の機能システムと訓練の実際 (池田・全講師)

[高次脳機能障害・身体の声聴く]

13:40-14:40 講義6) 右半球損傷の病態解釈と回復の探求 ～半側空間無視 (信迫)

- ① 右半球損傷のニューロサイエンス
- ② 「行為のスペース・インテグレーション(空間統合)」としてみた右半球障害の特徴
- ③ 半側空間無視の病態 (注意障害、身体空間・身体周辺空間・身体外空間)
- ④ 半側空間無視の治療 (身体の正中線、体性感覚空間への注意、行為の多感覚統合)
- ⑤ 半側空間無視の研究

14:45-15:45 講義7) 左半球損傷の病態解釈と回復の探求 ～失行症 (信迫)

- ① 左半球損傷のニューロサイエンス
- ② 「行為のトランスフォーメーション(変換)」としてみた左半球障害の特徴
- ③ 失行症の病態 (肢節運動失行・観念運動失行・観念失行)
- ④ 失行症の治療 (動作的・映像的・言語的表象の同種・異種感覚情報変換、道具使用)
- ⑤ 失行症の研究

15:50-16:20 講義8) ”麻痺した身体”と”変容した高次脳機能”の言語 (宮本)

- ① 身体化された認知(embodied cognition)、身体所有感、運動主体感
- ② “身体の声聴く”セラピストになる
- ③ “それは私のものであるかのように見えます。しかし、そうではないと感じます。”
- ④ 患者の意識経験への接近、共感、理解
- ⑤ 神経心理学は患者一人一人のためにある(ルリアのロマンチック・サイエンス)

認知の樹(映像) 「行為の記憶」

16:45 終了